

# タケシール

# AQ 防水 Type S

水性一液型 アクリルゴム系防水塗料



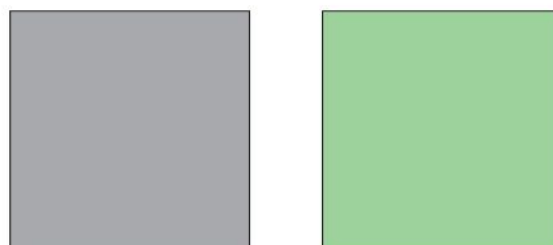
## 特長 1

早い塗膜乾燥性を持ち強靱な塗膜を形成します。

## 特長 2

水性一液型で扱いやすく、用具のお手入れも簡単です。

塗膜見本



グレイ

グリーン

入り目 1缶当りの一般施工 m<sup>2</sup>

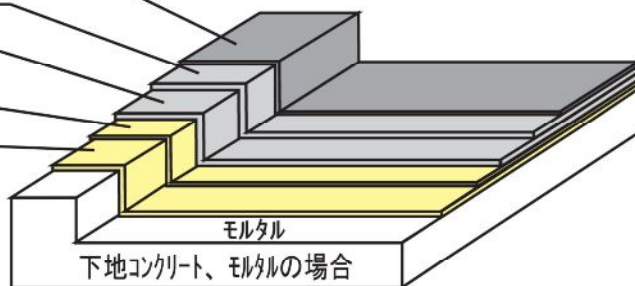
16 Kg 約 10 m<sup>2</sup>

4 Kg 約 2.5 m<sup>2</sup>

## 一般施工方法

製品名	塗布量 (Kg/m <sup>2</sup> )	塗装間隔(時間)
タケシールAQトップ	0.1~0.2	3~4軽歩行可
タケシールAQ防水Type S	0.8	3~4
タケシールAQ防水Type S	0.8	3~4
タケシールAE2117プライマー	0.15	3~4
タケシールAE2117プライマー	0.15	2~3

○吸い込みの激しい下地の場合は、プライマーをさらに塗り重ねる或いはプライマーにセメントを混合し、刷り込むように塗布してください。



※塗膜厚が約1mmの仕上がりになります。

※タケシールAE2117プライマーで使用した塗装用具は他の商品に使用しないでください。

※下地は必ず清掃し、平滑にしてから施工してください。

※下地のクラックや目地は、ウレタンキック・目地テープ・補強クロスを併用し、しっかりと前処理してください。

※入り隅は、液溜まりができませんようにウレタンキックで前処理してください。

※下地に合わせてプライマーを選択して下さい。(裏面を御参照ください。)

## 基本物性

試験項目	測定値
引張強度 (N/mm <sup>2</sup> )	4.81
抗張積 (N/mm)	197
伸び率 (%)	350
引裂強度 (N/mm)	14.4
硬度 (ショア A)	60

## 塗料性状

試験項目	測定値
粘度 (cps)	3,300 ± 300
固形分 (%)	64~67

## 下地／プライマー 相 関 表

下 地	商 品 名	特 徴	塗 布 量
コンクリート・ モルタル・ 硬質旧塗膜	タケシールAE211プライマー (弊社推奨プライマー)	2液エポキシ・耐水性良好・強密着	0.15 Kg/m <sup>2</sup> × 2回塗り
コンクリート・ モルタル	タケシールAQモルタルプライマー	1液アクリル・カチオン系	0.2 Kg/m <sup>2</sup> × 2回塗り
ウレタン旧塗膜	タケシールAQ層間プライマー	水性 1液アクリル	0.1 Kg/m <sup>2</sup> × 1回塗り

※下地は施工前によく洗浄してください。

※コンクリート・モルタル面の劣化が強く吸い込みの激しい場合は、塗布回数を増やす又は、セメントを混ぜて刷り込んでください。

※旧塗膜は、劣化し密着力が低下している場合があります。密着力の低下している部分は剥離してください。

### 注 意 事 項

- 施工中や施工後塗膜の乾燥硬化中に降雨が予想される場合や、施工前の雨で下地湿度が高いと思われる場合の施工は控えてください。
- 温度が5℃以下の場合の施工はお控えください。
- 強風時での施工はゴミが塗膜に付着することが考えられますのでなるべくお控えください。
- 一液型のため機械攪拌は不要ですが、底に充填材が沈降している恐れがありますので、ヘラなどでかるくかき混ぜてからご使用ください。
- 基本塗布量は一回当たり1.0Kg/m<sup>2</sup>以内でお願いします。一度に多く塗布しますと、中濃みや収縮クワクワの原因となりますのでご注意ください。
- 希釈する場合は、清水で3%(重量)以内、よく混合してご使用ください。
- 使用后、塗料が残った場合は乾燥しないようにしっかりと封をし、凍結、直射日光を避け冷暗所に保管してください。
- 使用済みの缶やウエス手袋等は、専門の処理業者に委託して処分してください。
- 施工後は、よく手を洗い、充分にうがいをしてください。
- 取扱いの際には、保護メガネ、保護手袋などの保護具を装着してください。
- 容器から取り出す際には、こぼさないように充分注意してください。
- こぼれた場合はウエスや新聞紙などで拭き取り専門の処理業者に委託して処分してください。
- 皮膚に付着した場合は、多量の水でよく洗い、痛みまたは外観に変化がある場合は早急に医師の診断を受けてください。
- 飲み込んだ場合は、できるだけ早く医師の診察を受けてください。
- 蒸気ガスなどを吸い込んで気分が悪くなった場合は、空気の新鮮な場所に移動させて安静にし、速やかに医師の診察を受けてください。

— M E M O —